

校長室だより

☆教育目標☆

自ら考え判断し、進んで行動できる富中生
<生活心得> 時を守り 場を清め 礼を正す
令和2年3月26日発行 No.23
富岡市立富岡中学校 校長 中村 喜雄

☆☆今年度の振り返り、そして、新たな出発へ・・・☆☆

本日、無事に令和元年度の修了式が行われました。修了式は、生徒たちが、それぞれの学年の全課程を修了したことを認め祝う式です。4月からは、1年生は2年生へ、2年生は3年生へ全員が進級することになります。

また、修了式は、学校生活で大きな節目にあたる日でもあります。生徒たちの成長を青竹に例えれば、節目は竹の節にあたります。竹の中は空洞ですが、風雨に対する強さは、同じ太さの木に比べずっと強いと言われていています。それは、茎が折れないように「節」がしっかりと守っているからです。生徒たちには、風雨にさらされてもびくともしない青竹のように、「節目」を自分で固めてほしいと思います。そのためには、この1年間を振り返り、自分自身の日々の努力・成長を認識することが大切です。本日渡された通知表で教科等の学習については学習の記録を、学習だけでなく様々な活動を通してどれだけ成長をとげたか等については所見を参考に、自分自身の取組をしっかりと振り返ってほしいと思います。その際、次の視点から考えることが重要といえます。

一つは、自分自身に対して厳しかったかということです。計画通り実行しようと努めたか。誘惑に負けてしまわずに自分の意図する方向に進めたか。途中で投げ出さず続けることができたか。そして、毎日を新鮮な気持ちですがすがしく生活できたか。昨日と今日が全く同じということは決してあり得ません。何かを目指して生活していれば昨日と違った今日という日が訪れるはずです。そんな中で、新しい自分づくりを目指し、一歩先の自分を見据え、日々努力・成長することを意識し、実践できたかということです。

もう一つは、どれだけ他の人のために時間を費やしたかということです。ボランティア活動に限らず、ごく日常的なことでの自分自身への振り返りです。例えば、委員会活動で皆のためにどんな活動をしたか、行事の時に陰の力となって働いたか。もっと身近なこととして、毎日行っている自問清掃で他人を気遣い、気働きをしながら取り組めたか、係活動でしっかりと責任を果たしクラスのために尽くしたか等々です。

中学校は、大人になる（自立できる）ための力と心を育てるところです。自分に厳しく、そして、他の人のために働くことができるようになることが、社会に出て心豊かにたくましく凜とした生き方ができるための条件でしょう。自分に厳しいことは、他の人から信用されること。そして、他の人のために働くことは、社会の中で自分自身を生かすことに繋がるのですから・・・

青竹の節をしっかりと固めて、4月から新しい気持ちで茎を大きく育てるため、生徒一人一人が自分のやるべきことをしっかりと自覚し、日々努力・成長してくれることを期待しています。

結びに、今年度、保護者の皆様には「最高のサポーター」として、地域の皆様には「最強のサポーター」として本校の応援団となってください、本校の教育活動に対して深い御理解と御協力を賜りましたことに深く感謝申し上げます。誠に、ありがとうございました。



